

# リーディングDXスクール事業 【実践事例】

仙台市立錦ヶ丘中学校（仙台市）

## 【取組内容⑤】 「1人1台端末を活用した校則見直しプロジェクト」

【概要】「社会へ参画する態度」や「物事を多角的に理解し、適切に判断する力」の育成を目指し、現行の校則について、クラウド環境と端末を活用して「生徒」「保護者」「教員」「地域」がそれぞれの立場で意見を述べ、議論を重ねた。

① Formsで校則についての意見を収集し結果を共有する。

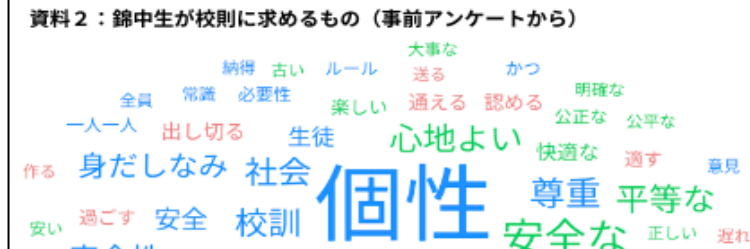
資料1：校則が必要（不要）な理由（事前アンケートから）

	主な意見	キーワード
必要 (93.8%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒全員が安全に学校生活を送るためには何かしらのルールが必要だと思うから。</li> <li>多くの人が快適に過ごせるようにするため。</li> <li>校則がなかったら誰かが嫌な思いをしたり秩序のない学校になってしまうから校則は必要。</li> <li>校則がないと大人になったときに常識が分からなかったりマナーを守ることができなくなるかもしれないから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全</li> <li>快適</li> <li>秩序</li> <li>常識</li> <li>マナー</li> </ul>
不要 (6.2%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>この校則がなければ学校に来る人だっていると思うし、校則が厳しければ学校生活も楽しくないと思うからです。</li> <li>自分の個性を縛られることなく自由に発揮したいから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個性</li> <li>自由</li> </ul>

③ ②と同時にそれぞれの立場の代表が話し合いを実施し、その結果とクラウドで収集した意見をまとめて、共有する。

①靴下について	どちらかといえばそう思う	自分は統一感や清潔感を演出する手段としてそのままのいいと感じている。しかし、本時での他の人の意見を聞いて暗い色や長さに縛られたくない人がいるのも事実であると思った。そのため学校生活に支障が出ない程度であればマークが入っていたり、明るい色であったりするものに変更してもいいのではないかと思います。
①靴下について	どちらかといえばそう思う	正式な場だけ原則として靴下は黒や紺を着用する。
①靴下について	どちらかといえばそう思う	今の校則の靴下は、紺や黒で、制服にあってとてもいいと思うけど、錦中は、個性を認め合える学校だと思うので個性を認め合う日の錦オールは、色も長さもいろんなのでいいと思います。
①靴下について	そう思わない	
①靴下について	そう思う	多様性を重視しても構わなくなっていると思ったので、靴下の校則は利便性がなく個性があまり表現されないのが必要ないと思います。校則では靴下は最低限授業や他人に危害がないものにするとういので良いと思います。

④ 修正案を作成し共有後、最終投票をFormsで実施し次年度に向けての計画を策定する。



提案  
「R5年度最終案」を新年度の4月から試行期間として運用する。その後の振り返りについては生徒総会を活用し、必要に応じて修正を図る。

理由  
最終案の文面だけを見て、見直しの是非を判断することが多くの生徒にとっては難しいと考えた。また、実際に見直し後の校則（最終案）で一定期間生活することで、より当事者意識を持って、ルールについて考えることができるため。

次年度のスケジュール

時期	R6.3	4月	5月	5/28	6月
今後の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終案の提示（1・2年生）</li> <li>保護者への説明</li> </ul>	 試行期間		【生徒総会】 ①R5年度最終案について ②R6年度の検討事項について	新年度のプロジェクト始動

② 資料を基に、各学級で話し合いを実施し、現行の校則に対する課題について認識を深め、個々の意見をクラウドで収集する。

